

- 8) Wood, R. D. 1947: Characeae of the Put-in-Bay region of Lake Erie. Ohio Journ. Sci. 47: 240-258.
- 9) ———, 1949: The Characeae of the Woods Hole region, Massachusetts. Biol. Bull. 96: 179-203.
- 10) Zaneveld, J. S. 1940: The Charophyta of Malaysia and adjacent countries. Blumea 4: 1-213.

○飛島にハマナタマメを得た (森 邦彦) Kunihiro MORI: *Canavalia lineata* DC. found in the coast of Isl. Tobishima, Yamagata Prefecture.

飛島には暖帯植物が数多く生育しているので名高い。その最たるものは何といつてもタブ林であろう。私は 1952 年夏同島西海岸でハマナタマメを採取した。これは勿論種子の漂着によつて発芽したものである。全長 15 cm, 5 葉を有していた。大井博士の日本植物誌によればその分布は本州(東海道以西)・四国・九州・琉球・台湾・支那が掲げられており、裏日本には自生は無いものらしい。グンバイヒルガオは山形県下では既に 3 ケ所で採取された報告があるが、ハマナタマメは初めてと思われる。新潟県粟島の場合、暖帯系植物で同島に土着しているものは殆んど凡ての種が島の東側であり、又反対に北方系植物は西側である(島の中央部には南北に走る脊稜山脈が通っている)。この現象は気候的因子に起因しておると私は考える。勿論凡てのものに例外がある如く、ここにも東西各側に 1 種宛の例外があつた。本誌 27 卷 11 号に報告したグンバイヒルガオ及び今回のハマナタマメは共に西海岸で採取されたが、之等は勿論土着し得るものとは考えられないので上記の推断に支障を来たさない。飛島の場合未だ南方系及び北方系植物を一々当つてみておらないが、この様な事実が成立するのではないかと考えている。

○シロヤマゼンマイの不連続分布 (杉本順一) Junichi SUGIMOTO: Discontinuous distribution of *Plenasium banksiaefolium* Pr. in Japan

シロヤマゼンマイ (*Plenasium banksiaefolium* Pr.) は四国、九州、琉球列島、台湾及び東南アジア熱帯地方に分布する常緑のシダ類である。静岡県興津町の本間文雄氏は昭和 28 年 12 月伊豆半島の西岸に採集に行つて、多数のシダ類を採集して其の標本を私に見せて下さつた。其の内に伊豆宇久須村で 12 月 27 日採集したもので、葉柄を含めた葉の全長 90 cm の裸葉は本種と思われるので、よく調べて見た。葉柄が光沢ある褐色なること、小葉が小柄を有して其の基部は中軸と関節すること、鋸齒や小脈の形状などを見ると、シロヤマゼンマイであることが確かである。本間氏によると同地の山地で深い水のある谷川を涉つて崖をよじて苦心して採集されたもので、僅か一箇所だけで 4 株を見たのみだと云う。本種は今日まで本州では紀伊半島の如き暖地でさえ未だ知られないもので、四国(土佐)から飛んで本州中部の伊豆半島へ不連続分布することは珍らしい。外形が一寸オオキジノオに似ているので、或は紀伊半島にあつても見逃がされて